



6島のスケジュール

5月3日(日): 飛島大運動会
5月3日(日) こいのぼり茶会(北木:豊浦地区)
5月3日・4日・5日(日・月・火) 走り神輿(真鍋島)
5月4日(月) 高島神社祭典(高島)
5月7日(木) お接待(真鍋島)

北木島の流し雛



北木



4月19日(日) 北木島の伝統行事である【流し雛】が行われました。今年は海外から来られた方などで賑わい、2階の体験コーナーはほぼ満席の状態でした！海外の方は少し苦戦しながら雛を作っておられましたが、とても可愛い雛が出来上がって皆さん嬉しそうに写真を撮ったりされていました◎潮の関係で昨年より遠くには流れませんでした、昨年度で一旦休校となった北木幼・小学校の卒業生と先生方も来てくださり、在校時に作成した流し雛を皆の無病息災を願いながら流しました。

災害に備えて

高島



4月14日(火)午前10時、津波を想定して島内にJアラートが鳴り響き、今回は高台ではなく公民館に避難集合しました。消防士さん2名来られ救命蘇生法(心臓マッサージ)、AEDの使い方を教わりました。参加者からの質問に対しての対処法がとても参考になりました。そして、自治会長から災害に備えて「防災バッグ」の紹介があり、購入希望者も多く居られました。地震や台風などの災害に備え海岸道は遮断されるので避難道整備も年に数回行っています。災害を想定して命を守るために今後も訓練は続けて行きましょう。



～願いをつなぐ観音参り～



4月10日(金)、恒例の観音参りが行われました。当日はあいにくの雨でしたが、咲き誇る桜とヤマツツジの島内を彩る中、参加者は島内一周の観音様を巡りました。各所のお地蔵様には、山河昭美さんが25年前から毎年、島民皆様の、無病息災と海上安全の願いを込めて縫い続けてくださっております。花柄がかわいいピンクの前掛けがかけられました。4月から島に来たフリースクール「育海」の子どもたちは初めて参加し、継続の子どもたちは今年も参加をしてくれて、島民の方々に拝み方を教わりながら、地域の方たちとの絆を深める一日となりました。



真鍋島

月に一度、本浦公会堂「五里五里」でカラオケ交遊会が行われています。真鍋島まちづくり連絡協議会による、誰もが集まれる場をつくる「真鍋の Wa」の取り組みの一つです。始まりは有志の方々による小さな集まりでしたが、六島のカラオケ同好会との交流も深まり、今では島の名物イベントになりました。歌声が次々と響きわたり、皆さんの上手さに思わず聴き入ってしまうほどです。歌う人も聴く人も、おしゃべりを楽しみながら、和やかな時間を過ごしています。



北木小学校の整理

北木西

3月24日 気候も良く早春の陽気に包まれたみなさんは、朝早くから北木小学校で長年使ってこられた書物や教材、そして掃除道具などを廃棄、保管、移動と選別し、整理に頑張っておられます。北木小学校の卒業式も19日で終わり、今日が整理の日となりました。北木小学校は来年度から在籍数がゼロとなるため休校となります。寂しさを感じる思いです。少子化の影響がもろに受けております。子供たちが“笑顔”になるために“学び”と“運動”そして“ふれあい”と楽しんでもらう想いで建てられた校舎も長年の影響で少しは老朽化しているようです。

この整理されたことにより、校庭にある花壇のお花を北木西公民館に頂くことになりました。綺麗なお花を植えて頂き、あたり一面が明るくなって気分も上々！！
新年度を迎えるのにふさわしい景色となり感謝の気持ちでいっぱいです。♡

お釈迦様の誕生日（花祭り）



4月8日、恒例の花祭りが行われました。本堂での「おつとめ」を終えた後、2階のベランダからお餅・お菓子・お金を投げる「餅まき」が行われ、招待された小学生・教職員のみなさんが楽しそうに拾い集める姿が印象的でした。今年は例年に比べて人出は少なく、島民の減少や財政的な厳しさなど、行事の継続に対して課題も少なくありません。今後は、時代に合わせた方法をみんなで話し合い、希望を持って繋いでいきたいと考えております。行事の開催にあたりご協力いただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。笑顔のあふれる、素晴らしい1日となりました。

第42回笠岡市オリエンテーリング大会開催 ～全国から老若男女150人以上が、白石島を駆けめぐる～



4月19(日)会場の白石島 B&G 海洋センターには全国、遠くは北海道から参加、年齢は92歳の方から、4歳の子供さんを含む家族で参加される方など、この競技の魅力の幅広さを実感しました。体力に応じたコースが準備されており、それぞれのポイントを目指して地図を頼りに順次スタート！！最初のゴールの方は、スタートから40分余りで最終ポイントにタッチ。参加者も大勢でしたが、この大会が安全に開催される為の多くの関係者の皆さんに感謝します。ゴール後は地元団体によるバザーの協力で、お腹も満足されて帰路に就けられました。